

無線綴じ本の修理

のこ ～鋸目による方法～



無線綴じの本のページがバラバラ外れてきた場合の修理方法は様々なものがあります。ここでは、写真集のようにノド部分の余白がなかったり、少なかったりした資料をなおす方法を紹介します。この方法は「無線綴じ本の修理～三つ目綴じによる方法～」に比べ、ノド部分の情報は見えますが、製本の強度は格段に弱いため、その点はあらかじめ認識しておきましょう。

手順

1、表紙の背から中身のページを外して、一枚ずつバラバラにする

2、接着剤を除去する

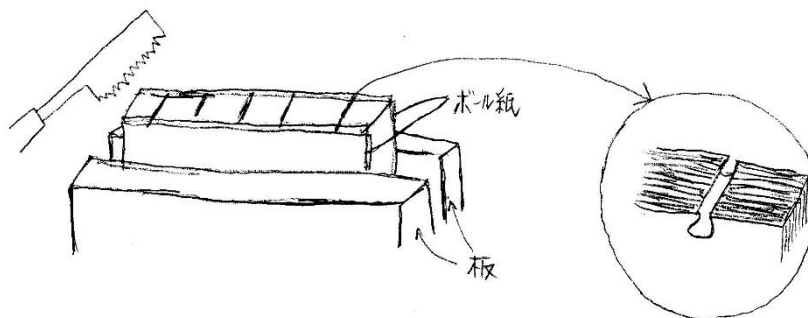
外したページに付着している接着剤の滓をきれいに削ぎ落とす。



3、きれいにした背に、鋸（糸鋸）で切れ目（鋸目）を入れる

鋸目の本数は多ければ多いほど強度が増すが、通常は3～5センチ間隔で入れる。資料そのままでは安定せず、鋸目が入れにくいので、厚ボール紙で挟み、さらに、板で挟んで、それを締め機やクランプなどで挟んで安定させて行う。

鋸目のくぼみ（凹）の大きさは麻（糸）を埋め込む程度。また、形は図のように（逆）台形になっていると強度が増す。



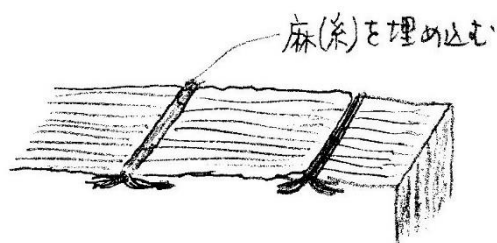
4、麻を埋め込み、接着剤を塗る

鋸目に溜まった紙の切り滓を、刷毛や目打ちで、なるべくきれいに取り除き、接着剤を入れながら、背幅+4センチ程度に切った麻（糸）を埋め込んでいく（背から2センチ程度ずつ飛び出る）。糸の場合、縀りを戻して、糸の隙間にも接着剤が入るように埋め込んでいく。背全体にも接着剤をたっぷり塗る。

このときの接着剤は、通常使用する紙工作用や木工用ボンドより強力なボンドを使用することが多い。ページが外れやすい無線綴じの強度を増すためである。

6、麻（糸）の処理

乾いたら、背幅より飛び出した麻（糸）を、5ミリ程度ずつ残して切りおとす
その麻（糸）は、ほぐして左右に振り分け、図のように本体に貼る。

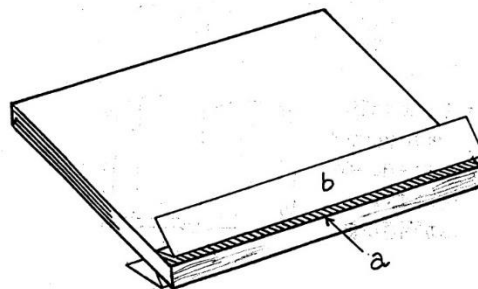


7、ハネを貼る

裏打ちキャラコ（あるいは6匁程度の和紙）を表と裏のページに貼る。のりしろは背側5mm程度。

6、ハネを折る

裏打ちキャラコ（あるいは6匁程度の和紙）を、のりしろから折り返し、下図のa部分を糊付けし、さらに図のように折り曲げておく。



7、表紙と中身を合体させる

図のb部分に糊を塗り、表紙に付ける。
（表表紙から付けるようにした方がよい）

次に、ひっくり返して、下図のC部分に糊を塗り、表紙を被せて貼る。

